

自 己 評 価 表

愛媛県立北条高等学校
学校番号 (19)

教育方針	多様性を尊重し、総合学科の強みを最大限に生かした教育活動の中で、未来を創る人材を育成する。		重点目標	○校訓「自律 創造 敬愛」に根差した生徒の育成 ○フットワーク・チームワーク・ネットワークの充実・強化	
領域	評価項目	具体的目標	評価	目標の達成状況	次年度の改善方針
学習指導	教科指導の充実	授業公開週間や研究授業等を利用し、年5回以上相互授業参観を行い、授業力向上を図る。また、学校訪問研修、教育センター研修に積極的に参加し、専門性の向上に努める。 A:5回以上 B:4回 C:3回 D:2回 E:1回以下	A	教科の研究授業や年次のホームルームの研究授業をそれぞれ年1回以上実施し、11月には相互授業参観日を設けることにより、各人の授業力向上の機会を提供できた。また、ICT活用授業改善推進事業や学校訪問での公開授業参観をはじめとした校外研修の活用にも努めた。	校内研究授業や相互授業参観週間では、個々の研鑽の機会となるよう積極的な参観を呼び掛ける。コロナ禍でのリモート授業など、今後もICT機器を効果的に活用した授業について継続研究するとともに、授業の定着を図る。
		生徒による授業評価を年2回、保護者による授業評価を年1回実施し、「分かる授業」を目指した改善策を講じる。	A	7月と12月の年2回授業評価を実施し、生徒による評価の反省点・問題点を踏まえた上で、生徒の実態に合わせた「分かる授業」のための適切な工夫がなされた。	総合学科の特長を生かし、ICT機器を活用した授業を通して生徒の意欲・関心・学力を高める授業を実践する。アンケート結果を教科や課で共有し、組織的・系統的な指導につなげる。
		研究授業を、各教科年1回実施し、指導方法の改善と授業力向上を図る。	A	各教科とも研究授業を実施し、指導方法等について研修を深めることができた。	研究授業の実施日を考慮するなど、研究授業の参観率を上げることができた。
	家庭学習の充実	1日3時間以上の家庭学習時間を確保させ、家庭学習の習慣化と質の向上を図る。 A:3時間以上 B:2時間59分～2時間 C:1時間59分～1時間 D:59分～30分 E:29分以下	A	第1回家庭学習時間調査では平均3時間10分、第2回では平均3時間9分であった。どちらも3時間という目標を達成することができた。	家庭学習時間を増加させるとともに、生徒が自分自身の進路を真剣に考えた学習スタイルを確立し、主体的に学習に取り組むことができるように支援する。
生徒指導	基本的な生活習慣の確立	校訓を念頭に自分と学校に「自信と誇り」を持てるように基本的な生活習慣の徹底を図る。行事等の機会を捉え、身だしなみの徹底を図る。	B	遅刻や指導をされることが重なる生徒が見られた。指導に対しては素直に従うことが出来るが、自主的な行動に結びつかない生徒がいる。	規範意識を高めるために「是は是、非は非」という観点に崩さないように指導していきたい。
	問題行動未然防止	指導方針の明確化を図り、教員間の意識の統一を踏まえて、情報を共有して問題行動の未然防止とともに組織としての対応を心掛ける。 生徒理解のため年間6回以上の個人面談を行う。 A:6回以上 B:5回 C:4回 D:3回 E:2回以下	A	保護者の価値観や親子関係の多様化に苦慮したが、教職員間で連携を取りながら、指導方針の明確化を図ることができた。	担任・年次と更に連携・協力を図り、組織としての指導体制を強化する。緊急連絡の在り方・体制についても考慮する。
進路指導	進学指導の充実	将来を見据えた進路研究を充実させるとともに、志望校に合格する学力養成を図るため、各種模試の受験率100%を目指す。 A:90%以上 B:89～80% C:79～70% D:69～60% E:59%以下	A	コロナ禍にあり、後日受験を実施したこともあったが、各種模試の受験率はほぼ100%を達成した。2年次の模試では、四年制大学志望者と医療系専門学校志望者のレベルに合わせて、模試の種類を変えることで、より現実的な結果分析を行うことができた。	1. 2年次の進路指導においては、「産業社会と人間」「総合学習」を更に改善・充実させ、個々の進路希望に適した指導の工夫をする。各種模試の結果を分析し、学力向上と次の模試につながる事後指導を充実させる。
		1年次からの生徒への進路研究の意識付けを行うとともに、組織的な面接・小論文指導を充実させ、総合型選抜・学校推薦型選抜等における志望校合格率100%を目指す。 A:90%以上 B:89～80% C:79～70% D:69～60% E:59%以下	A	3年次においては、小論文・面接指導ともに年次を中心に関係教職員で協力して指導を行った。生徒は積極的に取り組み、ほぼ100%志望校に合格できた。	総合型選抜・学校推薦型選抜に対応するために、1年次から進路研究をする中で、小論文・面接指導の充実も図る。
	就職指導の充実	就職セミナーを2年次11月から3月、3年次は4月から10月まで実施し、就職活動にあたって勤労観・職業観の高揚を図るとともに就職試験対策の重要性を理解させ、就職セミナー受講率及び校内就職模試受験率ともに100%を目指す。 A:90%以上 B:89～80% C:79～70% D:69～60% E:59%以下 進路ガイダンス、進路実現講座、面接指導、就職セミナーなどを効果的に連動させることで、就職内定率100%を目指す。さらに、ミスマッチを防ぐために、生徒と担任、就職担当職員との相談を充実させる。 A:90%以上 B:89～80% C:79～70% D:69～60% E:59%以下	B	3年次の就職セミナーは課題提出も交えて実施し、対象生徒全員が確実に行った。2年次は計画通り11月～3月にかけて放課後教室にて実施した。3年次は就職模試は、2年次も含め、就職希望の生徒は100%受験した。	今年度は実施は少なかったが、企業の採用担当者を招いての説明会を多く開催するなどして生徒の心に強く働き掛け、就職活動に取り組む意欲向上につなげる。就職模試は今年度の生徒の報告書をもとに、さらに実戦的なものにする。
人権教育	人権意識の高揚	いじめの未然防止のために、状況把握や情報共有がスムーズにできる工夫と協力体制づくりを継続する。人権意識向上のための様々な啓発活動を実施し、生徒が心の成長を感じられるよう工夫する。	A	いじめの未然防止のために情報交換を大切にし、落ち着いた学校生活を送ることが出来るサポートを行うことができた。人権意識向上につながる個々の取組はしっかり準備をして、啓発活動を実践できた。	いじめの未然防止につながる状況把握や情報交換を継続し、人権意識向上のためのさまざまな啓発活動を継続しながら、さらなる人権意識向上を目指す。
		人権・同和教育の学びによって、生徒自身がしっかりした考えを持つよう努める。学期に一度実施している人権・同和教育ホームルーム活動の内容を充実させ、主体的な学びにつなげる。	A	人権・同和教育ホームルーム活動の学びに対して、各クラスにおいて真剣に取り組む姿が見られ、その結果高い人権意識を持つ生徒が多くなった。	人権・同和教育の学びを自分のこととしてとらえ、しっかりとした自分の考えを持って行動できる人に成長するよう努める。

領域	評価項目	具体的目標	評価	目標の達成状況	次年度の改善方針
自己実現の支援	科目選択の充実	総合学科の特色を生かした教育課程を編成し、総合学科満足度100%を目指す。 A:90%以上 B:89～80% C:79～70% D:69～60% E:59%以下	A	1年次は「産業社会と人間」、2年次は「総合学習」の時間内に科目選択に関する説明会を実施した。特に、1年次については、保護者同伴での説明会を実施した。また、卒業前の3年次生の91%が総合学科で学んだことを高く評価している。	特色ある教育課程を編成するとともに、個別面接の強化で、生徒の個性や進路希望を的確に把握し、生徒にとって最もふさわしい科目選択の実現に努める。
	進路意識の醸成	「産業社会と人間」「総合学習」「総合研究」「進路実現講座」を中心としたキャリア教育における学習活動を効果的・効率的に推進することで生徒の進路意識の醸成を図り、キャリア教育満足度100%を目指す。 A:90%以上 B:89～80% C:79～70% D:69～60% E:59%以下	A	コロナ禍ではあったが「産業社会と人間」「総合学習」「総合研究」「進路実現講座」をほぼ予定通り行うことができた。3年次生の進路実現に向けての取組の自己評価において、「大変良かった」「良かった」の合計は91%であり、4年連続で90%以上を越えていた。	来年度の「産業社会と人間」「総合学習」「総合研究」について生徒の実態に合った内容に改訂できるように教科や年次、キャリア教育推進会議等での意見を元に計画を立て、調整を行っている。
	図書館教育	朝の読書、総合研究をはじめとした授業における調べ学習、図書委員会の活発な活動を通して読書習慣の定着を図り、年間貸出冊数1300以上を目指す。 A:1300冊以上 B:1299～1000冊 C:999～700冊 D:699～400冊 E:399冊以下	C	昨年度に続き今年度も図書貸し出しの動きは鈍く、2学期末の段階で貸出冊数は583冊であった。一年生年生に対する図書館オリエンテーションや掲示板・ホームページを利用した読書啓発活動をはじめ、絵本の読み聞かせやテーマ展示、高校生に人気のある作家を中心とした図書を選定など図書環境整備に取り組むことができた。	図書委員を中心として、生徒が来館しやすい図書館づくりに努める。今後も、学級文庫や絵本の読み聞かせを通して本に触れる機会を提供したり、「風早の本だより」の教室掲示を始め、校内掲示板やホームページでの読書の啓発活動を実施したりして、読書習慣の形成を支援する。
	部活動の活性化	部活動加入率85%以上で活気ある部活動を実践する。 A:85%以上 B:84～80% C:79～75% D:74～70% E:69%以下 県大会、四国大会、全国大会の出場10部以上を目指す。 A:10部以上 B:9～7部 C:6～5部 D:4～3部 E:2部以下	A	部活動加入率は86.7%で目標を達成することができた。しかし、団体競技で年間を通して単独でチームを組めない運動部が多くなっている。	生徒数の減少で各部とも部員の確保が難しくなってきたので部の統廃合をさらに進めなければならない。
	資格取得の推進	進路実現につながる資格取得へ積極的に挑戦する意欲を持たせるとともに、全体での合格率上昇を目指す。また、上級資格への挑戦意欲を高め、1級の資格取得を目指す指導を行う。	A	12の部活動が県大会以上に進むことができた。全国大会へも5つの部活動が出場することができた。	保護者や地域に活動が伝わるよう魅力的な発信に学校全体で取り組みたい。
	教育支援の充実	アンケート結果や教育相談、スクールライフアドバイザーとの面談を通じて、生徒が抱えている問題や悩みを早期発見や、生徒一人一人の気持ちの変化を見逃さないように努める。また、継続した対応を行い、協力しながら悩み解決のために生徒の心に寄り添える取組を実施する。	B	アンケート結果や気になる生徒との面談から、全体的な問題や個々の問題についての状況を把握して分析を行い、情報共有を図った。スクールライフアドバイザーと定期的に面談を行いながら、自分の悩みの解消に向けて日々向き合っている生徒のサポートができた。	今後も楽しく学校生活を送ることができるように、継続した支援活動を行うために情報交換を密にし、情報共有を図って生徒の心に寄り添える対応を続ける。
開かれた学校づくり	保護者との連携強化	会員相互の親睦や信頼関係作りのために、校内や校外の関係行事への積極的参加を呼び掛け、PTA活動の活性化に努める。さらに、学校ホームページやインターネットの機能を活用し、今日的PTA活動のあり方について研究し、企画・運営する。	B	PTA総会は感染防止のため書面開催となったが、PTA理事会は多くの方の参加があり意見交換できた。また、PTA研修会などは防災のための研修会を行い興味・関心をもって頂くことができ、PTAだよりも学校の様子をできるだけ伝えられるような内容にした。	できる限り負担をすくなくするとともに、必要の無い寒冷的な会合を廃止し、充実した活動ができるようになる。また、理事会や研修会などは早めに連絡をし、予定が立てやすいようにする。学校HP内のPTAコーナーを活用し、活動報告や連絡事項が確実に保護者の方々に伝わるようにする。
	国際教育活動の充実	外国人講師とのチームティーチングを充実させ、コミュニケーション力と国際理解の向上に努める。国際理解教育関連の活動における指導の充実を図るため、講習や研修会に参加し、情報発信を行う。	B	ALTとのチームティーチングは全学年合わせて1日平均4時間行った。教科書の内容に加えて、海外の季節毎の行事などについても取り扱い、国際理解を深めた。教員・生徒共にリモートでの国際理解教育関連の講習会や研修会にも参加した。	ALTとのチームティーチングにおいては事前の打ち合わせを入念に行い、授業の内容が濃いものになるように努めていく。授業の他に生徒とALTが関わるように、活動を工夫する。
	教育活動情報の公開	教育活動やその成果を積極的に開示するため、ホームページにおいて最新の情報提供をリアルタイムな更新を通して行う。	A	ホームページに学校行事だけでなく教育活動全般について掲載し、ほぼ毎日更新できた。	学校アビールにつながるような内容をホームページへ積極的にアップし、本校に興味・関心を持ってもらえる機会を増やす。
	地域との連携促進	地域行事やボランティア活動に主体的に参加し、積極的に地域との交流を図る。年間に生徒一人が一つ以上のボランティア活動を行う。	A	新型コロナの影響で中止となる機会が多かったが、可能な限りの活動は出来たと考えている。直前で中止となってしまったが、愛媛マラソンにも100名以上の生徒が参加する予定であった。	愛媛マラソンへの協力は学校としての取組と関わつつあり、次年度も引き続き考えていく。地域行事にも積極的に関わりたいよう連携を取っていきたい。
	大学等との連携促進	大学等の授業・施設利用体験、学生と生徒の交流等を各年次1回以上行う。事業所訪問、インターシップにおいて30か所以上の事業所との連携を行う。 A:30か所以上 B:29～25か所 C:24～20か所 D:19～10か所 E:9か所以下	A	コロナ禍ではあったが、1年次「地域に生きる人々に学ぶ」講座、「企業・大学等訪問」11か所、2・3年次「出張授業」12講座を行うことができた。進路意識の醸成につながった。インターシップは31事業所を予定していたが、実施できなかった。しかし事前訪問を行うことはできた。	来年度も「地域に生きる人々に学ぶ」「出張授業」「企業・大学等訪問」「インターシップ」等上級学校や事業所との連携を予定している。感染状況を注視しながら効果的な体験学習をすすめていきたい。
保健・安全管理	安心・安全な教育環境の充実	生徒一人一人の交通安全への意識の高揚を図り、交通事故・違反ゼロを目指す。さらにヘルメット着用を徹底をはかる。	B	重大事故は発生していないものの、郊外での自転車マナーに関する指導は毎年のことである。持ち込み許可制としたスマホに関しては、目的外使用で指導した件数は、昨年度の倍近くに増加した。慣れと気の緩みによるものと思われるが、もう一度スマホとの関わり方について生徒に問いかける必要がありそうだ。ネットトラブルも見られた。スマホ安全教室の実施だけでなく、様々な場面で呼びかけることで生徒の意識を高める必要性を感じた。	緊急連絡の徹底を図るとともにスマホの利用に関して、届け出制による持込許可の条件を今一度生徒に確認する予定である。また情報モラルの教育にも力を入れていきたい。登下校については、時間を厳守する習慣作りを行うとともに、不審者に対する注意喚起を徹底し、安全な登下校をさせる。あらゆる局面で生徒に注意喚起を行っていきたい。
		防災避難訓練及び救命講習会を年間2回以上実施し、非常時の行動についての危機意識の向上を図る。防災避難訓練については、予告なし訓練も実施する。	A	新型コロナウイルス感染症予防対策に取り組みながら、防災避難訓練、救命講習会を実施した。予告なし訓練も実施し、学校行事でも実施し、保護者にも参加いただいた。非常時を意識し、危機管理意識の向上を図ることができた。	予告なし訓練を今後も継続し、地域との連携も図り、非常時に適切な行動がとれるよう、訓練を充実させたい。
		安心・安全で清潔な施設や設備の整備に努めるため、年間3回以上の安全点検を実施し、改善を図る。	B	安全点検を5回実施し、不備のあったところについて、軽微なものについてはすぐに修理改善できた。コロナ対応によるトイレ改修が実施された。	破損箇所に関して、すぐに改善できない箇所については、事務課と連携をとり、なるべく早急に改善できるよう、施設・設備の整備に努めたい。
		体力の向上、心身の健康の保持増進を図り、健康で活力ある生徒を育てるため、保健指導・健康相談の充実を図る。	B	学校医等と連携し新型コロナウイルス感染症予防対策をとりながら、健康診断等を行った。事後措置については、受診率が低い傾向が続いている。保健指導・健康相談については、担任やSLAと連携しながら取り組むことができた。	健康診断を受診するだけでなく、自己の健康管理につなげることができるよう、事後指導の充実を図りたい。保健指導については、ICT機器を活用しながら、わかりやすく興味を引くことができるよう工夫したい。
		インフルエンザや新型コロナウイルス感染症予防の観点から、新しい生活様式の定着を図り、保健管理・保健指導の充実を図る。	A	SHR時の健康観察や放課後の消毒等、昨年度に引き続き感染対策に取り組むことができた。生徒保健委員活動では、手洗いの重要性の啓発を中心に取り組み、県生徒保健委員研修会で中予地区代表として発表した。	今後も健康観察や消毒作業を徹底し、感染予防に取り組んでいきたい。また、感染予防の意識が低くならないよう、継続した保健指導に努めたい。
業務改善	適切な勤務時間	教職員の勤務時間を守り、休憩時間を確保する。業務の効率化を図り、時間の有効活用を図る。	B	職朝連絡シートの活用定着、会議の短縮や書面開催、ICT支援員配置など、業務の効率化と個々の負担軽減に繋がるよう努めた。	特定の教職員に業務が偏らないよう、配置を十分検討する。また、過去の慣習にとらわれずスクラップできるものを探す。
	職場環境の整備	健康講座や健康相談を定期的に実施し、教職員の疲労や心理的負担の軽減を図る。	B	座学だけでなく、身体を動かす健康講座を実施できた。また、教職員が気軽に相談できる空気の醸成に努めた。	定期的な健康診断だけでなく、面談も増やし、心の疲労やストレスを軽減する。

※ 評価は5段階（A：十分な成果があった B：かなりの成果があった C：一応の成果があった D：あまり成果がなかった E：成果がなかった）とする。